

平成23年5月19日
於
府中市立教育センター

平成23年第5回

府中市教育委員会定例会会議録

府中市教育委員会

平成23年第5回府中市教育委員会定例会会議録

- 1 開 会 平成23年5月19日(木)
午後3時00分
閉 会 平成23年5月19日(木)
午後4時14分
- 2 会議録署名員
委 員 北 島 章 雄
委 員 糸 満 純一郎
- 3 出席委員
委員長 久 芳 美恵子 委員長職務代理者 崎 山 弘
委 員 北 島 章 雄 委 員 齋 藤 裕 吉
教育長 糸 満 純一郎
- 4 欠席委員
な し
- 5 出席説明員
教育部長 高 橋 脩 二 文化スポーツ部長 齋 田 文 雄
教育部次長 吉 野 寿 一 文化スポーツ部次長 後 藤 廣 史
兼総務課長 兼文化振興課長
教育部副参事 小 椋 孝 文化振興課長補佐 時 田 浩 一
兼指導室長 ふるさと文化財課長 英 太 郎
総務課長補佐 月 岡 敏 浩 ふるさと文化財課長補佐 江 口 桂
兼学校耐震化等推進担当副主幹 生涯学習スポーツ課長補佐 古 田 実
学務保健課長 中 村 孝 一
学務保健課長補佐 市 川 直 次
給食担当副主幹 須 恵 正 之
指導室長補佐 桑 田 浩
指導室副主幹 新 藤 純 也
指導主事 国 富 尊
指導主事 小野満 賢
指導主事 大 津 嘉 則
- 6 教育委員会事務局出席者
総務課係長 田 中 啓 信
総務課主任 山 本 正 芳

議 事 日 程

第1 会議録署名員選定について

第2 会期決定について

第3 報告・連絡

- (1) コミュニティ・スクールモデル校設置について
- (2) 平成22年度特別支援相談の実施結果について
- (3) 平成22年度教育センター施設利用状況について
- (4) 平成22年度科学教育事業の実施結果について
- (5) チャリティーコンサート「Jazz in FUCHU」の開催について
- (6) 国史跡武蔵府中熊野神社古墳展示館（仮称）整備事業における横穴式石室実物大復元模型の設置について
- (7) 郷土の森博物館「あじさいめぐり」について
- (8) 「宇宙の日記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト作品大募集」について
- (9) 2011 ボールふれあいフェスタの開催について
- (10) 第22回市民スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催について

第4 その他

第5 教育委員報告

午後3時00分開会

○委員長（久芳美恵子君） ただいまより、平成23年第5回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

_____ ◇ _____

○委員長（久芳美恵子君） 本日の会議録署名員は、北島委員と糸満委員にお願いいたします。

_____ ◇ _____

○委員長（久芳美恵子君） 会期は本日1日といたします。

_____ ◇ _____

○委員長（久芳美恵子君） 傍聴希望者がおりますので、許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

_____ ◇ _____

◎コミュニティ・スクールモデル校設置について

○委員長（久芳美恵子君） 本日は、議案の審議はございません。報告・連絡から始めさせていただきます。

報告・連絡（1）につきまして、指導室、お願いします。

○統括指導主事（金子真吾君） それでは、コミュニティ・スクールモデル校設置について、ご説明申し上げます。

まず1、設置の目的についてですが、平成21年度府中市コミュニティ・スクール検討委員会報告書に基づき、府中市の特色を生かした「スクール・コミュニティ」の実現を目指し、先進的、試行的な運用を行い、現実的な運用面や取り組みを通しての成果と課題を明確にする、こちらは平成22年度にモデル校の準備委員会等を設置しまして、準備をしてきた内容も含まれております。

（2）は、こちらではガイドラインを作成いたしまして、学校運営連絡協議会、現在、行われているものですが、これを発展、充実する手だてを段階的に市内全校へ広めるということを大きな目的としております。また、文言についてですが、下の大きな四角にスクール・コミュニティの定義ということでお示しさせていただきました。一番大きなところでは、文部科学省が示している「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」とは内容的に異なるものとなることから、名称については府中市における学校を核としたコミュニティづくりを意図して、「スクール・コミュニティ」とした方が、名称から生じる混乱が避けられると考えて、このような形で定義をしております。

2、対象モデル校については、日新小学校と府中第五中学校を指定しております。

3、設置期間については、平成23年5月20日から平成25年3月31日までのおおむね2カ年を目途としております。

4、モデル校の取組み事項については、幾つか項目を挙げておりますが、まず（1）といたしまして、「スクール・コミュニティ」自体の組織や運営のあり方を、モデル校で実際に、報告書に基づき運営した場合に、どのような成果、課題があるかということを進めてまいります。それぞれのモデル校につきましては、この5月、打ち合わせを行いまして、委員の人選等を進めております。

（2）「スクール・コミュニティ」における学校経営に関する協議内容については、ここに3

項目ございますが、学校経営への参画等のあり方、人事に関する意見具申等、学校評価との関連性についての内容でございます。学校評価については、本市で進めております第三者評価をどのように関連性を図るかということを検討してまいります。

(3)「スクール・コミュニティ」における学校と地域との連携を図る。こちらは学校の応援団としての機能を設けようというところを大きなねらいとしております。

(4)地域教育コーディネーターの配置について。こちらは地域と学校を結ぶ重要な役割として、地域コーディネーターを各校に1名配置いたします。また、その人選や運営のあり方等について、職務分担等についてもモデル校で検証を進めてまいります。

5、「スクール・コミュニティ」協議会の設置。それぞれ日新小学校、府中第五中学校に「スクール・コミュニティ」の協議会を設置し、その会に教育委員会の事務局が参加いたしまして、必要に応じて会の運営等について意見を述べていき、支援をしてまいります。事務局は、指導主事等が入る予定でございます。

6、コミュニティ・スクールモデル校連絡会、こちらはモデル校2校を対象にした情報連携の場と考えております。校長、副校長、地域教育コーディネーターと、また当該校長が必要とする者が参加できます。

7、経費については、対象は地域教育コーディネーター配置に関する経費、「スクール・コミュニティ」協議会委員に関する経費、モデル校設置に関する委託費ということで、大きく3点ございます。内訳については四角囲みにしてございます。

8、成果の報告については、大きなところではガイドラインと、その成果と実証について報告書をまとめていただく予定でございます。

以上でございます。よろしく願いいたします。

○委員長(久芳美恵子君) ご説明ありがとうございました。いわゆるコミュニティ・スクールでございますが、府中は「スクール・コミュニティ」という名称でスタートをしようということでございますが、何かご質問またはご意見等ございますでしょうか。はい、お願いいたします。

○委員(齋藤裕吉君) コミュニティ・スクールそのものについては、歴史的には非常に長い歴史があったのかと思うのですが、府中においても府中市のプランに基づいて、今回いよいよ着手ということで、その成果を大いに期待したいところであると思います。

それで、コミュニティ・スクールモデル校と言って、途中で「スクール・コミュニティ」と言葉をひっくり返して言っているわけですが、また途中の説明でコミュニティ・スクールモデル校連絡会というような会を持つというようなことで、ちょっと聞いていて、あるいは見ていると、概念の混乱を招きかねない感じがするのですが、用語統一というようなことはなさらないのかなと思って、今、現時点で考えていらっしゃるものがあればお聞かせいただきたいということが一つです。お願いします。

○委員長(久芳美恵子君) いかがでしょうか。お願いします。

○統括指導主事(金子真吾君) まず、大きなコミュニティ・スクールということは、「府中市学校教育プラン21」の方で、府中版のコミュニティ・スクールをつくるということで大枠をうたっております。その点があるので、今回この「スクール・コミュニティ」については平成21年度の実践報告ですか、報告書の検討委員会の方で名称を、変えてみてはどうかというこ

とで、今、両方がちょっと並び立っているという状況で、ゴールとしては文言は修正して、一つに訂正していくような形で、まとめるような形で考えてはおります。

以上でございます。

○委員(齋藤裕吉君) ぜひそのようにしていただいた方がいいかと思えます。「学校教育プラン21」の中でコミュニティ・スクールモデル校という言葉づかいをしておるので、これはどこかで当然、生かしておかなければいけないかもしれませんが、そこを整理する段階で、今のような趣旨、概念というのでしょうか、それがはっきりまとまったものとして各学校等にお示しできるようにしていただければなと思えます。

それから、この事業については成果を期待したいわけですが、当然、学校を中心にした活動ということになるわけなので、学校のメリットということが一番を考えていくような取り組みになるのかなとは思いますが、でも、実はコミュニティ・スクールという考え方は、地域との関連で、地域にもメリットがあるという、そういう取り組みであるべきではないかなと思えますし、そのような取り組みがこれまでの考え方の基本に流れてきているのではないかなと思えます。そういった意味で、参加する地域の人たちが来てよかった、また地域の方にもこういったメリットが還元されるというものも、一緒に検討を進めていく中で示していただけるようになると、大変効果のある取り組みになるのではないかなと思えますので、学校、そして地域、両方にメリットのある、そのような取り組みを目指していただけると、とてもよろしいのではないかなと思えます。これは意見です。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。

ほかにかがでございましょうか。はい、お願いします。

○委員(崎山 弘君) この資料によりますと、学校の応援団として地域の関わりのあり方、これの連携を図ることが示されているわけですが、今回、モデル校として日新小学校が選定されたということは、既に、これから話し合われて決まるかもしれませんが、一応モデル校になったからには、何かこういうことが事業として予定できるなという、想定されているものも既にあるのでしょうか。もしよろしければ教えてください。

○委員長(久芳美恵子君) はい、お願いします。

○統括指導主事(金子真吾君) 日新小学校は、地域の行事が大変盛んなところで、その地域の人たちを生かしつつ、今、崎山委員がおっしゃったような学校とのコーディネーター、パイプ役を通して両方が繁栄すると、協力関係をつくるようなところをねらっております。

府中第五中学校は、同窓会等のOB会組織がしっかりできておりますので、そういった人たちとの人的な協力も含めて連携を深めていくというようなことを予定しております。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) よろしいですか。ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。もしなければ、ちょっとお聞かせいただきたいのですが、地域教育コーディネーター、各校1名の配置ということでございますが、例えばどのような方を考えていらっしゃるのでしょうか。

○統括指導主事(金子真吾君) こちらの方は、学校の内容にも教育活動にも精通され、また地域のことも情報に詳しいということで、PTA会長を歴任された方であるとか、また、地域の青少年育成委員ですとか、そういうことも経験された、ある程度、学校の状況も詳しく地域

のことに詳しい方ということで考えております。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） わかりました。ぜひそういう両方に精通した方が加わっていただけると、本当にいいなと思います。ありがとうございました。

ほかにかがでございましょうか。

それでは、報告・連絡（１）「コミュニティ・スクールモデル校設置について」了承いたします。よろしく願いいたします。



◎平成２２年度特別支援相談の実施結果について

◎平成２２年度教育センター施設利用状況について

◎平成２２年度科学教育事業の実施結果について

○委員長（久芳美恵子君） 続きまして、報告・連絡の（２）、（３）、（４）、これ三つ続けてでございますが、関連がございますので、指導室、よろしく願いいたします。

○指導室副主幹（新藤純也君） それでは、平成２２年度の教育センターにおける各事業の実施結果について、資料２から４に基づきまして報告いたします。

初めに、資料２の特別支援相談の実施結果でございます。

１の教育相談の（１）相談件数ですが、来室相談は３９６件、電話相談は４６３件で、前年度に比べ、来室相談は同数、電話相談は６４件減少しております。

（２）の相談延べ件数ですが、前年度と同様に一番多い相談者は保護者で、その他につきましては医療系機関や他の相談機関などがございます。

２の就学相談の相談結果ですが、受付件数は小学校が８７件、中学校が５５件で、前年度に比べ９件増加しております。就学先内訳につきましては表のとおりでございます。この表にはございませんが、学期途中での相談であります転学相談と通級学級への入級相談というものがございまして、小・中合わせて１０９件ございました。

３の巡回指導の（１）指導結果でございますが、指導内容は表のとおり３通りございまして、小学校の合計は１１３件で昨年度より１７名増加しております。中学校の１名は昨年度と同様でございます。

４の巡回相談の（１）相談回数でございますが、延べ４，９５１回でございます。昨年度に比べて４８４件減少しておりますが、教育センターの教育相談につなげたケースが増えたことや、次の（２）の学校訪問に関係しますが、学校訪問の回数が増え、教員へのアドバイスにより問題が早く解決できたことなどが要因と考えてございます。

（２）の学校訪問回数は表のとおりでございます。１校当たりの平均訪問回数は前年度に比べ２．５回増えております。

以上、各事業の結果について報告申しあげましたが、今後も心理士、指導員、相談員など全職員が連携し、常に丁寧にわかりやすく親切な対応に努めてまいります。

続きまして、資料３の平成２２年度教育センター施設利用状況について報告いたします。

教育センターは、教育の振興及び市民の生活向上を目的とした施設でございます。

１の施設別時間帯別の利用状況ですが、第１会議室、第２会議室、研修室、第３会議室の総計は２，３７３回で、前年度より１，０４０回減少しております。これは光熱水費の節減のため

め、部屋の使用数を減らすなどの工夫をしたもので、研修や会議が減ったものではございません。

2の主催者別施設利用状況ですが、指導室、教育委員会、学校等、学校関係者の利用が多いわけですが、公民館としての位置づけもあり、市民サークル等に貸し出しをしており、社会教育団体が前年度に比べ104回増えております。

続きまして、資料4の平成22年度科学事業の実施結果について報告いたします。

(1)の小学校科学教室でございますが、市内在住の小学5年生及び6年生の児童で、抽選による50名が1年間通して勉強いたしました。参加した児童は、郷土の森や多摩川、多摩動物公園などを利用した観察、国立科学博物館の見学など、ふだん取り組めない学習や体験を通して、より広く科学について学びました。

課題としては、学校行事や習い事などにより欠席者が多いことでございます。

次に、(2)の中学校科学教室でございますが、市内在住の中学校2年生を対象に、学校の授業では取り組みにくい高度な化学実験を通して、科学的思考力や創造的能力の育成を目的としております。抽選による40名が1年を通して、細胞分裂の観察や天文学習など、実験や観察を行いました。特に、染色体の観察やDNA抽出などの高度な実験は、科学好きの生徒たちの満足度は非常に高いものでした。

課題といたしましては、小学校科学教室と同様に欠席者が多いことでございます。

最後に(3)の子どもサイエンススクールでございますが、こちらは物づくりを基本として、毎回テーマを変え「広報ふちゅう」で募集いたしました。例年と同様にガラス細工は応募が多く、2回開催となりました。親子を対象とした講座では、親子が協力し合い、楽しそうに制作に取り組む様子が伺われました。

以上、平成22年度教育センターで実施した事業について報告を申しあげました。よろしくお願いたします。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。教育センターで実施している事業につきまして、3点のご報告がございました。

それでは、一つずつご質問等がありましたらお聞きいたします。まず(2)の特別支援相談の実施結果について、いかがでございましょうか。何かご質問、ご意見等でも結構でございますけれども、はい、お願いたします。

○委員(崎山 弘君) この相談という事業は、非常に地道な活動でございまして、ただしとても、大切に、大変、実施されている方は苦勞されていることと思いますが、ここに件数はいろいろ出てきているわけですが、これはある意味、構造の評価であって、その内容、プロセスの評価では、結果の評価というのはここには出てきていません。実際、これだけの件数の相談をやりまして、結局、結果として何か、保護者から不満があったとか、そのような意見はどこかから聞こえてきたりはしていないでしょうか。あるいは、その相談についての満足度調査みたいなものはされていますでしょうか。

○委員長(久芳美恵子君) いかがでございましょうか。

○指導室副主幹(新藤純也君) ご質問の、それぞれの相談に対する満足度調査につきましては、そのような調査は現在のところしてございません。ただ、実際の効果につきましては、確かに数字ではあらわれないものの、実際にこの教育相談、来室相談等でこれだけの多くの相談

をしておりますが、3回、4回を経て何回も相談を重ねるうちに、最終的にはその悩みがほぼ解消に至った、もしくは改善されたということで、一つ一つの事例がかなり、1年ではおさまらないものもありますが、解決し、解決した場合に私の方に報告として上がっております。そのようなものも増えておりますので、そういう部分では相談の効果があったと考えているところです。

○委員(崎山 弘君) できたらぜひ、全数調査ではなくてよいのですけれども、実際、今年度、調査をした10分の1ぐらいで結構ですから、1年後に、さあどうでしたでしょうかみたいなことを1回まとめていただくと、また、これからの相談にも生かせるのではないかと私は思うのですけれども。医療の世界でもそういうことをやるのですけれども、もしできればそういうことをやって、相談に生かしてもらえればいいのかなと思いました。意見です。

○委員長(久芳美恵子君) 今の崎山委員の意見にちょっとつけ加える形になるとは思いますが、ケースの中で、ちょっと理由がわからないのだけれども中断してしまうケース、また、ある程度、解決が図られて、それで終わったケース、いろいろあると思うのですが、その結果、ケースをそういう形でちょっと分類してみると、今、崎山委員がおっしゃったような形の、直接の満足度調査ではないのですけれども、推しはかることができるかなと思っております。

それと、先ほど説明いただいた、センターでの巡回相談が484件減っているけれども、これは、むしろ学校訪問で先生方への指導というか、かかわりが増えて、そして先生方の力量がアップして、そしてそのために相談の回数というのが減っていったのではないだろうかというご説明がございましたけれども、そういうことが往々にあり得ると思います。先生方が本当に力量をつけていただくと、その力量で子どもたちのケースをうまく対応できるようになると思いますので、このマイナスになったのが、そういう形での考察をしていただいているのはありがたいかなと思っております。

ほかにかかがでございましょうか。はい、お願いします。

○委員(齋藤裕吉君) 3番の巡回指導のところなのですけれども、ここちょっと先ほど私、聞き落としてしまったかもしれませんけれども、これは回数的にはどうなのでしょう。増えているのでしょうか。

○委員長(久芳美恵子君) はい、お願いします。

○指導室副主幹(新藤純也君) 巡回指導の件数ですが、昨年に比べて7件、全体では増えております。実際にこの巡回指導につきましては、各学校から最高で5人を限度といたしまして、特に発達障害等で授業等に遅れのある子に対して学習支援をするという目的でやっております。ですから大体、実際に学校からの、それから保護者等の方で要望が出てくる場所ですが、やはりこちらの巡回指導につきましては効果があるということで、少しずつではありますが、増えているところでございます。

以上でございます。

○委員(齋藤裕吉君) これ、回数的には、今、上限5回というようなことですが、学校側から見ると、月に何回かであっても非常にありがたい指導のきっかけになるのですね。どうしても通常学級で多人数の中で、どうしてもわからない、同じテンポで進みにくいお子さんがおる場合、大変な助けになることが多いと思います。そういう意味で、ちょっと今、回数のお聞きしたのですけれども、今後ともその効果を期待しておりますので、よろしくお

願いいたします。

○委員長（久芳美恵子君） どうぞよろしく願いいたします。

それでは（３）の教育センター施設の利用状況の方はいかがでございましょうか。光熱水費等々で研修会の数が減っていて、むしろ外からの社会教育団体が利用する回数は増えているというご説明でございました。よろしゅうございましょうか。

それでは（４）の科学教育事業の実施結果につきましては、いかがでございましょう。ご質問、ご意見ございますでしょうか。はい、願いいたします。

○委員（齋藤裕吉君） 小学生の科学教室と中学生の科学教室で、問題点を上げれば欠席者が多いということなのですが、どのような状況で欠席者が多いのでしょうか。

○委員長（久芳美恵子君） いかがでしょうか。

○指導室副主幹（新藤純也君） 小学校及び中学校の科学教室に参加する子どもたちの欠席の理由ですが、やはり昨年度は土曜日の学校の行事、それから塾、それから習い事というのが、やはり子どもたち、土曜日、そのようなことでいろいろ予定が入っておりまして、こちら、最初に募集いたしまして、同じメンバーで10回やるというところで、最初からある程度の日程というのは示しておりますが、やはり子どもたちとしても避けられない事情というところで、当日、欠席というような流れになるということでございます。

○委員長（久芳美恵子君） 残念でございますけれどもね、欠席者が多いというのは、

ほかにいかがでございましょうか。よろしゅうございましょうか。

それでは、報告・連絡（２）「平成22年度特別支援相談の実施結果について」、（３）「平成22年度教育センター施設利用状況について」、（４）「平成22年度科学教育事業の実施結果について」了承いたします。大変ありがとうございました。



◎チャリティーコンサート「JAZZ in FUCHU」の開催について

○委員長（久芳美恵子君） それでは、報告・連絡（５）につきまして、文化振興課、願いします。

○文化振興課長補佐（時田浩一君） それではチャリティーコンサート「JAZZ in FUCHU」の開催につきまして、資料に基づきご説明いたします。

例年５月にけやきフェスタの中で開催しておりましたが、今年は被災地の復興に協力するため、義援金を募るチャリティーコンサートとして、主催、府中文化振興財団、後援、府中市、府中観光協会、そのほかにも、むさし府中青年会議所、むさし府中商工会議所等、多くの協力を得て開催をするものでございます。開催日は５月２８日、土曜日となっております。

裏面をご覧ください。右側の文章にもありますように、今年の「JAZZ in FUCHU」は132バンドの応募があり、新しい会場、屋外も含めまして25会場で計画をしてございましたけれども、あまりにも大きな災害を目の当たりにしまして、スタッフ一同、開催の可否について検討を重ねてまいりました。その結果、被災地の支援を目的としたチャリティーコンサートとして、規模を縮小して開催することとしたものでございます。

会場は、グリーンプラザけやきホール、中央文化センターひばりホール、ルミエール府中コンベンションホール、芸術劇場ふるさとホールの4会場となっております。

出演団体は、府中四小ハーモニーブリーズのほか、府中市が育成している府中市青少年吹奏

楽団や、府中ジュニアウィンドオーケストラなどとなります。府中ジュニアジャズスクールは、市内在住のクラリネット奏者、谷口英治氏が講師となって育成をしているものでございます。

以上で説明を終わりますが、委員の皆さんにおかれましては、ぜひお越しをいただきますようご案内を申しあげます。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。今年の「JAZZ in FUCHU」はチャリティーコンサートですという、そういうものでございます。何かご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。はい、お願いします。

○委員(北島章雄君) 昨年に比べて縮小して行うということなのですが、どのぐらいの規模で縮小なされたのでしょうか。

○委員長(久芳美恵子君) 縮小の規模ということですね。

○文化振興課長補佐(時田浩一君) 昨年度は89団体の参加でございました。

○委員長(久芳美恵子君) 今年は、そうすると何団体になりますか。

○文化振興課長補佐(時田浩一君) 23団体です。

○委員長(久芳美恵子君) 89団体から23団体に絞るというのは、大変な作業でしたね、これは。北島委員、いかがですか。

○委員(北島章雄君) 今回、こういう決定をなされたのはしょうがないとは思いますが、やはり縮小というのはちょっと、経済とかいろいろ考えた面においては、前年どおり行われた方がいいのではないかなという気が私はいたしました。被災されている方々を応援する意味合いでも、前年と同程度の規模でやられた方がよかったのではないかなと。応援の気持ちを込めて、大勢の団体が参加してチャリティーコンサートをやられた方がよかったのではないかなと私は思いました。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。

ほかにいかがでございましょうか。

ちょっと質問したいのですが、この裏面の一覧表の下の、「同時開催サロン・ド・カモンタ、ジャズライブ」ですが、有料で、これは場所はどこでございますか。住所は書いてございますが、どこで開催されるかというのは、皆さんわかりますか。

○文化スポーツ部次長兼文化振興課長(後藤廣史君) 今日、お手元にでき立てのチラシをお持ちしましたので、詳しく書いてありますので、これをご覧いただきたいと思います。

それから、先ほどの北島委員さんからのお話なのですが、やはりこれを計画しまして、早目に決定をしないといけないというところで、3月11日に震災がありまして、それから、どうしたものだろうということで、余震の関係もありましたし、それで屋外はやめて、室内、屋根のあるところでやりましょうというようなことで、今回、この団体が絞られたというような経緯を聞いております。それから一生懸命に、実行委員会の皆さんが本当に知恵を絞って、その団体の選出から何からすべてやっていただいております。後援もかなりの皆さんにご協力をいただいていると思います。ということで、各会場に義援金箱を置きまして、そこでチャリティーを行うというような形をとっております。どうぞよろしく申し上げます。

それから、文化庁の長官の方から、ぜひやはり自粛、自粛ではなくて、もうちょっと元気を

出しましょうと、通常に戻りましょうというような呼びかけの文書も参っておりますので、今後のいろいろな開催、芸術文化祭とかいろいろな、青少年音楽祭とか、これから続くわけなのですが、粛々と例年どおりやっていくような方向で考えております。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。やはり縮小、縮小ですと、地域も、直接被災しなかったところも元気がなくなるし、経済も回らないということもございますので、わかりました。これからの行事に関しましては例年どおりというお話でございました。

ほかにもございますでしょうか。

それでは報告・連絡(5)「チャリティーコンサート「JAZZ in FUCHU」の開催について」了承いたします。よろしく願いいたします。



○国史跡武蔵府中熊野神社古墳展示館(仮称)整備事業における
横穴式石室実物大復元模型の設置について

○委員長(久芳美恵子君) 次に、報告・連絡(6)でございます。ふるさと文化財課、お願いいたします。

○ふるさと文化財課長補佐(江口 桂君) それでは、ふるさと文化財課から、国史跡武蔵府中熊野神社古墳展示館(仮称)整備事業における横穴式石室実物大復元模型の設置につきまして、お手元の資料に基づきご説明いたします。

なお、委員さんにおかれましては、説明用参考資料として別紙図面をお配りしておりますので、よろしく願いいたします。

まず1の趣旨でございますが、国史跡武蔵府中熊野神社古墳展示館(仮称。以下「展示館」といいます。)の整備事業における横穴式石室実物大復元模型については、安全管理上の問題等に対処するため、配置等の見直しを行い、展示館敷地内隣接地に設置するものでございます。

次に、2の内容ですが、別紙参考資料1ページをご覧ください。配置は、熊野神社古墳の南側、神社境内内に隣接する展示館西側とし、1ページ下の配置図の網がかかっている部分になります。

続きまして、別紙裏面の2ページをご覧ください。上の図が横穴式石室実物大復元模型を上から見た平面図で、下の図がそれを横から見た断面及び見通し図です。実物大石室模型の外側を覆屋状のパネルで保護しております。向かって右側、南側から石室内部に入ることができる出入り口がございます。面積は37.73平方メートル、材質は、安全性、耐久性に配慮し、重量のある石のブロックを積み上げる従来の施工方法を見直して、石室の内壁だけをモルタル擬岩という、表面上は実物の石室の石材とよく似た板状のパネル型のもを採用するものです。このように、石室の材質を変更したこと、当初案の模型が露出する工法だったものを、実物大石室模型の外側を鉄骨で箱型に覆う工法に見直したこと、さらには、展示館から直接展示ができる配置が必要なことなどから、横穴式石室実物大復元模型の配置は、展示館敷地内隣接地に設置することといたします。

恐れ入ります、資料に戻りまして、3の今後の予定でございますが、平成23年7月着工、平成23年11月完成(供用開始)でございます。

以上でございます。よろしく願い申し上げます。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。石室の実物大の復元模型の設置ということですが、何かご質問ございますでしょうか。

これは当然、見学の方が中に入れるということですね。実物には入れないけれども、この実物大に復元した方には、中に入って様子を見ることができるということでございますね。

○ふるさと文化財課長補佐（江口 桂君） そのとおりでございます。中に入れるような形で配慮しております。

○委員長（久芳美恵子君） いかがでございますでしょうか。はい、お願いします。

○委員（齋藤裕吉君） 安全管理上の問題等となっておりますけれども、これは率直にいうと、地震対策ということなのですか。どういうふうな安全でない状況を想定しているのかということ、ちょっと一言お聞かせいただきたいと思います。

○ふるさと文化財課長補佐（江口 桂君） 一つは、国道20号沿いということでございますので、振動等で崩れるということがないようにということで、今回、軽量型で、ただし、より強固な壁に変更したこと。

それから、ここは国道沿いということで、外から出入りが自由にできるようにすると、やはりいろいろと安全上、問題がある。特に学校の子どもたちなどの見学を実施したいと思っておりますので、外はフェンスで囲いまして、この展示館の中からは出入りができないようにいたしました。そのようにすることで、外から自由に入ることができませんので、中で何かあるようなことはないということに変更させていただきました。

なお、中に入る際は、展示館での管理運営に当たっていただく方が見学者を誘導する形で、展示館から入れるような配慮もいたしたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） よろしゅうございましょうか。

○委員（齋藤裕吉君） はい。

○委員長（久芳美恵子君） ほかにいかがでございますでしょうか。よろしゅうございましょうか。

それでは報告・連絡(6)「国史跡武蔵府中熊野神社古墳展示館(仮称)整備事業における横穴式石室実物大復元模型の設置について」了承いたします。よろしくどうぞお願いいたします。



◎郷土の森博物館「あじさいめぐり」について

○委員長（久芳美恵子君） それでは報告・連絡(7)、ふるさと文化財課、お願いいたします。

○ふるさと文化財課長補佐（江口 桂君） 続きまして、ふるさと文化財課より、郷土の森博物館「あじさいめぐり」についてご報告いたします。

郷土の森博物館の園内、約13.7ヘクタールでは四季折々の花が楽しめ、6月初めにはセイヨウアジサイ、ガクアジサイなどの約30種、1万株のアジサイが咲き出し、6月中旬には見ごろを迎えます。博物館には、市内から移築、復元された古い建物が各棟あり、あじさいの花越しに見る大正時代の町役場や、江戸時代のかやぶき屋根の農家などが独特の風情を演出します。

今年度は、昨年度までの事業名である「郷土の森あじさいまつり」を「郷土の森あじさいめぐり」に変更し、6月1日、水曜日から開催します。ぜひ、ほかでは味わうことができない博物館ならではの風情あるアジサイをご覧ください。会期は平成23年6月1日から7月3日、日曜

日まで、会場は郷土の森博物館園内全体です。期間中、6月5日、19日の2回、あじさい工房「あじさいのかざりを作ろう」で、あじさいの押し花、ステンシルなどで、アジサイにちなんだオリジナルの飾りをつくるイベントや、あじさいめぐり期間限定のあじさい餅とお抹茶が楽しめる、お茶室を利用した呈茶も開催されます。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。「郷土の森あじさいめぐり」のご説明をいただきました。何かご質問等ございますでしょうか。

梅と並んで、このアジサイというのが郷土の森の大変にぎやかな花の祭典だと思っております。いかがでございましょう。特にご質問等ございませんでしょうか。それでは、できるだけ多くの方がおいでいただけるように願っております。

報告・連絡(7)「郷土の森博物館あじさいめぐりについて」了承いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



◎「宇宙の日記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト作品大募集」について

○委員長(久芳美恵子君) 続きまして、報告・連絡(8)でございます。同じように、ふるさと文化財課、お願いいたします。

○ふるさと文化財課長補佐(江口 桂君) 引き続き、ふるさと文化財課から「宇宙の日記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト作品大募集」について、別紙チラシに基づきご報告いたします。

郷土の森博物館では、昨年に引き続き、「宇宙の日記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト」の作品を募集します。このコンテストは、宇宙や地球環境について考えることを目的として、文部科学省自然科学研究機構、国立天文台、宇宙航空研究開発機構などが主催し、全国の科学機関等が募集窓口となって行われます。府中市では郷土の森博物館が窓口となります。

一昨年は、郷土の森博物館で優秀賞を授与された作品のうち、小学生作文の部では市立第一小学校の児童が宇宙少年団理事長賞を、中学校作文の部では市立第一中学校の生徒が宇宙航空研究開発機構理事長賞を受賞されました。

既に各学校あてにポスター、チラシを配布させていただき、周知をお願いしております。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。作文、絵画のコンテストですね。宇宙の日記念、ガガーリンが宇宙へ行って50年ということでございますが、はい、お願いいたします。

○委員(齋藤裕吉君) こういうコンテスト、私はとても、こういうチャンス子どもたちに与えてあげるといのは、とてもよいことだなと思っているのですけれども、大体どのぐらいの応募というのがあるものでしょうか。といいますのは、〇〇コンテストというのは実は非常にたくさんありまして、学校の方に行きますと、学校の方でも、子どもたちにとってはとてもいい機会とは思いつつも、あまりたくさんあり過ぎて、どうしたものかというところもあるわけなのですけれども、昨年度あたりはどのぐらいの応募がございましたでしょうか。

○ふるさと文化財課長補佐(江口 桂君) 申しわけございません、昨年の学校の応募数が、ちょっと今、控えがございませんので、後ほど調べてお答えさせていただきます。

○委員長（久芳美恵子君） よろしくお願ひいたします。

○委員（齋藤裕吉君） わかりました。それで結構です。

○委員長（久芳美恵子君） それでは、昨年度はかなり賞を受けた、子どもたち2人ですか、今、ご紹介いただいたのは、今年もいろいろ目指して、子どもたちが夢を持って、絵画にしる作文にしる、かいてもらえればよいなと思います。

それでは報告・連絡(8)「宇宙の日記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト作品大募集」について了承いたします。どうぞ学校の方に周知徹底して、できるだけ多くの子どもたちが参加できるようお願ひいたします。



◎2011 ボールふれあいフェスタの開催について

◎第22回市民スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催について

○委員長（久芳美恵子君） それでは、報告・連絡(9)と(10)は、同じように生涯学習スポーツ課担当のことでございますので、続けてお願ひいたします。

○生涯学習スポーツ課長補佐（古田 実君） それでは生涯学習スポーツ課から、初めに(9)の2011 ボールふれあいフェスタにつきまして、お手元の資料9のチラシによりご報告いたします。

毎年2,000人近くの方々にご参加いただき、大好評を得ているボールふれあいフェスタを6月19日、日曜日、郷土の森総合体育館で行います。この事業は、子どもたちに日本のトップレベルのスポーツ選手とふれあうことで、スポーツ本来の楽しさを体験してもらうことを目的として、平成16年から始めたものでございます。第8回目となる今年度は、ミニゲームや体験コーナーなどの催しを、府中市を活動の拠点としているラグビーの東芝ブレイブルーパス、サントリーサンゴリアス、男子バスケットボールのトヨタ自動車アルバルク、サッカー及びバレーボールのFC東京、フットサルの府中アスレティックフットボールクラブという六つのトップチームと、市内の関係団体の協力のもと実施するほか、新たな試みとして、野外施設である人工芝グラウンドを使用し、ラグビーのイベントエリアとして実施いたします。

続きまして、(10)の第22回市民スポーツ・レクリエーションフェスティバルにつきまして、お手元の資料10の実施要項によりご報告いたします。

この事業は、広く市民の間にスポーツ・レクリエーション活動を全市的な規模で体験する場を提供し、市民一人ひとりがスポーツ・レクリエーション活動の振興に資することを目的として開催しており、今年で22回目を迎えます。

内容は、演技種目と競技種目で、6月26日、日曜日に参加団体が集い、郷土の森総合体育館で開会式を行います。総合開会式終了後、太極拳やよさこい等の18団体による演技種目の発表を行います。競技種目は全部で13種目を1カ月にわたって実施いたします。

また、平成25年に開催されます東京国体では、府中市は都民向けの国体PRとしてデモンストレーション種目を行う予定です。今回、その競技種目のPRを兼ねて、総合開会式当日にダブルダッチの公開演技を実施いたします。このデモンストレーション種目につきましては、実際に体験することもできるような形となっております。

以上で報告を終わらせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。ボールふれあいフェスタと、第22回

市民スポーツ・レクリエーションフェスティバルのことについて説明いただきました。

それでは、ボールふれあいフェスタの方からいきましようか。いかがでございませう。何かご質問、ご意見等ございませうか。

例年、結構な人数の方がご参加になりますよね、お子さまを含めまして。ちょっと私が気になったのは、このボールふれあいフェスタそのものではなくて、地震の関係で地盤が隆起したり下がったりというところが大分出ていたようですが、この屋外の人工芝グラウンドのところは、そういうアクシデントはなかったでございませうか。

○生涯学習スポーツ課長補佐(古田 実君) 今、委員長のおっしゃるとおり、3月11日の東日本大震災を受けまして、さまざまな各イベント等を行うに当たっては、規模を縮小したり、または安全性の確保ということで、さまざまいろいろな案件があると思うのですが、今回、この事業につきましては実行委員会方式ということで、さまざまな企業団体、または関係団体等のご協力のもと行うわけですが、その安全性についても十分に配慮しながら行うところがございます。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) わかりました、ありがとうございます。

(9)はよろしゅうございませうか。

それでは、市民スポーツ・レクリエーションフェスティバルについてはいかがでございませうか。

6月26日が開会式ですが、閉会式はいつですか。

○生涯学習スポーツ課長補佐(古田 実君) 開会式につきましては、ご案内のとおりでございます。そして各種目については、この要項のとおり別々の日程で行いますが、特に総合的に閉会式等は、行う予定はございませう。

○委員長(久芳美恵子君) そうですか。はい、わかりました。

小学生からシニアの方まで、これも多くの方がご参加していただくものでございませう。

よろしゅうございませうか。

それでは、報告・連絡(9)「2011ボールふれあいフェスタの開催について」、報告・連絡(10)「第22回市民スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催について」了承いたします。どうぞ多くの方が楽しんでいただけますよう、よろしくお願ひいたします。

その他でございませうが、何かございませうでしょうか。

ないようでございませうたら、教育委員報告に移ります。教育委員報告をお願ひいたします。



◎教育委員報告

○委員(齋藤裕吉君) それでは齋藤の方から報告をさせていただきます。

4月21日、水曜日ですけれども、本宿小学校を訪問させていただきました。本宿小学校は、東京都の言語能力向上推進授業の推進校ということで、校内で研究会を行うからということで、その様子を見せていただけてきました。各先生方、非常に熱心に、特に日本全体が言語能力の向上ということを大きな課題として、各学校で推進をしておるところでございませうけれども、ぜひ大きな成果が生み出せればいいなと思ひながら視察をしてまいりました。

それから4月28日、木曜日ですけれども、小・中学校長歓送迎会に出席をいたしました。

退職された先生方の本当に晴れ晴れとした顔と、昇任、転出される先生方の緊張感漂う表情とが非常に対照的な、そのような場面でごさいましたけれども、校長先生方の職責の重さというものを、そういう場面で改めて感じさせられた思いでごさいました。

それから5月8日、日曜日ですけれども、府中市美術館を訪問させていただきました。「江戸の人物画展」の最終日ということで、来館者が大変多かったように思います。子どもたちも、人物画探検隊というふうなクイズカードを持って回っておりまして、なかなかいい取り組みだなと思いました。家族と一緒に回っている様子がとても印象的でした。とても珍しい作品が展示されていて、すばらしい展示だったなと思っております。

それから5月11日ですけれども、水曜日、府中市立小・中学校教育研究会の総会に出席をさせていただきました。先生方の非常に真剣な表情が印象的でごさいました。役員体制を強化したということですが、今後の一層の活動の充実を期待したいところでごさいます。小椋室長のご講演も大変タイムリーな話題を取り上げていただいて、大変すばらしい内容であったなと思っております。

私の方からは以上でごさいます。

○委員(崎山 弘君) 崎山の方から報告いたします。

重複は避けまして、今、ここに実は携帯電話が一つあるのですが、この月曜日からセカンドスクールが始まっております。昨年、我々はセカンドスクールを視察に参りまして、今までの2泊3日が4泊5日になって、3泊目、4泊目ぐらいに子どもの具合が悪くなるという、そういう状況を拝見いたしました。それで、どのように対応するかということを教育委員会の事務の方でも随分考えていただいたようで、今回、まだ制度としてできてはいないのですが、ボランティアということで、私と市内の小児科医の方、全部で都合3人がこうやって携帯電話をいつも持っていきまして、もし何かあったら電話をしていいですよという形をとっています。幸い月曜日以降、まだ1回もこの携帯はかかっておりません。一応ルールとして、向こうに着いたときに初めに、機材がちゃんと機能しているかという確認を目的として、まずメールを送ってください、それに対して返信だけしますという形でやっております。それで無事に着きまして、幸い特別な問題はありません。向こうと、この携帯を経由してではなくて、個人的に、田中理事が向こうに行っておりますので、直接ちょっと話を伺ったりしたのですが、熱発して帰った方がおられるようでも、おおむね順調ということでした。このまま何事もなく済んでくれればいいのですが、一応、向こうでは看護師さんが対応してくださるようでも、何かありましたら、こうやって支援しますよということで、今、実際に事業が動いていますということを報告します。

以上です。

○委員(糸満純一郎君) それでは糸満から報告をさせていただきます。

4月27日に、PTA連合会の松本会長さんのお父様がお亡くなりになったということで、教育委員会を代表いたしまして、お通夜に参列をさせていただきました。

それから4月28日は校長会の歓送迎会に出席をいたしました。

5月3日に、私も美術館の「江戸時代の人物画展」に行かせていただきました。

それから5月11、12日と2日間にわたって、府中市議会の初議会が行われました。今回の改選で定員30人のうちの10人が新しい議員さんになったということでごさいます、こ

の臨時会で新たに議長さんが村木茂議員さん、副議長が遠田宗雄議員さん、それから教育委員会を所管する文教委員会、委員長さんが高野政男さん、副委員長が服部ひとみさんということで選出をされております。

それから5月17日に、これは校長会の主催ということで、教育管理職を目指す先生方の自主研修会というもののオープニングセレモニーということで行ってまいりました。なかなか最近はそのような教育管理職にチャレンジしてくれる先生方も少なくなってきた中で、意欲的に取り組んでいただけるということで、大変心強いということで激励をしてまいりました。

それから5月18日に東京都の市教育長会が開かれまして、そこで、今、府中市では、各小・中学校に空調機器を取り付ける工事をしているわけですが、この東日本大震災を受けて、国の補助金が少し見直し対象ということになっております。そこで東京都の補助金も国の補助金の上乗せ補助という性格上、東京都も打ち切りだということになってございまして、府中市としては、契約は既に済ませておりますが、補助金は出ない状況がございまして、いろいろご担当にもお願いするという形で、各市からもお願いが行ったようではございますが、最終的には東京都が規定の見直しをしていただいて、国が補助金を仮に出さなくても、東京都が単独でも補助金を出せるようなことを考えているということで、昨日ですが、ご報告をいただきました。府中市も東京都の分、大体3億円ぐらいの規模になるかと思っております。国の補助金は1億数千万円と聞いていますけれども、この見直しはまだ立っておりませんが、少なくとも東京都の補助金は見込めることとなりました。ただ、こういう時期でございますので、空調は無事に設置できるといたしましても、その使用基準はこれから改めて考えて、お子さんの成育といたしまして、育成に支障がないように、そして、日本全体で今取り組んでおります、そういう節電ですとか、そういったものにも貢献できるように、せっかくなのでみんな使ってしまうということではなしに、またそういった取り組みは別途、考えていきたいと思っております。

私からは以上でございます。

○委員（北島章雄君） 北島よりご報告させていただきます。

4月26日に都市町村教育委員会連合会第1回理事会に出席いたしました。

そして4月28日に校長先生の歓送迎会へ出席いたしました。

5月3日から5日なのですが、府中の大國魂神社の例大祭なのですが、そのときに山車行列があるのですよね。その府中の無形文化財に指定されている府中囃子が、本来でしたらばお祭りのときの山車の行列に皆さん出て行って、府中市のそれを習っている児童・生徒たちが、そのお披露目の場としてふさわしい場所なのですが、今回のお祭りは、要するに警察官の警備ができないということで執り行われなかったもので、とても残念だなと思っております。普通でしたら、その山車行列に各学校の先生、校長先生に参加していただいて、その披露している児童の踊りとかお囃子を見られるいいチャンスだったのですが、本当にできなくてとても残念でした。ただ、太鼓、みこしは出なかったのですが、昔ながらの神事、そして古式豊かなおごそかな行事が大勢の方に見られて、とてもよかったのではないかなと思っております。

5月11日には府教研の定期総会に出席いたしました。

そして5月5日に、私も青少対の第3地区に所属してございまして、その委員会に出席いたしました。青少対というのは、PTAの方々、そして地域の方々、そして各種団体の方々が参

加されており、その情報交換の場で、校長先生、第3地区は第三中学校の校長先生、第三小学校の校長先生、そして矢崎小学校、住吉小学校、南町小学校と、各学校の校長先生が全部お見えになり、そこで情報交換で各校の内容等をお話しなさいます。特に気になって聞いてしまったのは、第三中学校の谷合校長先生が、今回、小学校でセカンドスクールが実施されたため、八ヶ岳教室がなくなってしまいましたと。そこで1年生は校外学習ということで相模湖の方に行かれるそうです。そしてカレーライスをつくり、オリエンテーリングを行ったそうです。逆に、八ヶ岳に行かなかったけれども、相模湖の方ではよい1年生の統率のとれた授業ができたということをおっしゃっておいりました。やはり青少対の中で校長先生が親しみやすくお話ができる、とてもよい機会だなと思ひました。

以上です。

○委員長(久芳美恵子君) それでは久芳よりご報告いたします。

4月28日、校長先生の歓送迎会に出席いたしました。

そして5月13日、市の特別支援教育の研修会に寄らせていただきました。設置校の校長先生方や、相談の担当の方、各小・中学校の担当の方々など多くの方が出席していただき、障害のある子をお持ちの保護者の方の心情というところに一番焦点を当ててお話しさせていただきました。それぞれ皆さん立場が違ひるので、どこか一つでもお役に立てるところがあったら大変うれひいなという思ひでございました。

それで、今月は私、2回、郷土の森に、土曜日、通ひました。第1回が5月7日の土曜日、これは「アウトローたちの江戸時代」を見に、そして「さいごの恐竜ティラン」を見てまいりました。「アウトローたちの江戸時代」は、私が一番すごいなと思ひたのは浮世絵ですね。あの色合ひは本当に、100年以上経っているのに美しい色を保てるというのは、ちょっと主題とは違ひてしまうのですが、非常に感動いたしました。

そして「さいごの恐竜ティラン」というのは、たまたま時間があひいたので入ったというのが本音なのですが、ティランというのは肉食獣のティラノサウルスが、いわゆる隕石の衝突で、ティラノサウルスだけではなくてすべての恐竜が、氷河期のような状態に地球がなって絶滅してしまうというのを、どなたか、ちょっと名前を、今、忘れてしまったのですが、どなたかの物語本を原本にしたアニメーションのものなのですね。何気なく入ってしまった、すごく泣かされてしまいました。母子ものなのですが、ティランが、肉食獣なのですが、育ての親は草食獣の恐竜で、そして最後に絶滅をするときに母親が、ティランは肉食なのだから、母親の自分を食べてお前は生き延びなさいと言うのですね。そんなことはできないと言って、寄り添って死ぬわけですが、なかなかこのお互いを思ひやる心とその優しさというか、そういうものがとてもきれいなアニメーションで出ていたなと思ひました。この回は12時半だったせいでしようか、お子様連れの方が多いので、3分の2以上は埋まっていたと思ひます。

そして2回目に行きましたのは5月14日の土曜日、これはもうもともと見たいと思ひていました「はやぶさ」でございます。「はやブサ〜バック・トゥー・ジ・アース」のエディターズカットというのを見ました。本当に、一言で言えば感動なのですが、日本の技術力の高さ、その技術力の高さだけではなくて、その忍耐というのですか、このはやぶさを打ち上げた科学者の方たちの、そのあきらめない心というか、非常にこのはやぶさ、ご存じのとおりすごくドラマチックで、イトカワにタッチダウンして、離れてから通信が途絶えた時期が1カ月以上あっ

たりとか、それからイオン燃料が漏れて、もう帰ってこれないかもしれないというような危機的な状況があったわけでございます。それを、もう本当に乗り越えて、奇跡的に、当初よりは長い7年1カ月という期間で行って帰ってきて、それで最後のところが、またこれが感動ものなのですが、ファイルも私は全部買って来たのですけれども、このファイルは「はやぶさの最後の航跡」というタイトルなのですが、これははやぶさが地球に帰還するときに大気圏に入って、結局、本体は燃え尽きるわけですね、はやぶさの。そしてそのイトカワから採取したものを入れたカプセルを放出して、そしてそれを地球に届けるという使命があったわけですが、よく見ると航跡が二つあって、激しく燃えて、ここが地球の大気圏に突入して激しく燃えて、2本の航跡のうち1本は途中で消えています。これははやぶさがもうそこで消えてなくなった。そして最後に、このイトカワからのものを入れたカプセルの航跡がずっと続いているという、これが非常に、プラネタリウムを見ると、もう涙なくしては見られないというか。それからもう一つ、これははやぶさのラストショット。はやぶさが自分の任務をまっとうして消える前に地球を写した1枚の写真でございます。もう本当に、家でも娘たちに話すと、あ、ママ泣いているよ、みたいなことだからかわれてしまいましたが、本当に何か心のある物体のように思っていましたけれども、本当に先ほども申しあげました日本の技術力の高さと、本当に研究者たちが、最悪の状態になってもあきらめないで、ずっとかかわっていて、そしてそれがこの成果につながっているのだと思います。

そうしましたら、5月13日、これは私が見に行く前の日なのですが、「今度はドラマチックにならぬよう」というタイトルで、朝日の中にはやぶさⅡですね。これは2014年に宇宙にまた打ち上げられるということでございます。そしてまた、技術的にははやぶさのようにドラマチックにならないよう、当たり前のように行って戻ってくることを目指したいという、この行って戻ってくるということがいかに、普通のことがいかに大変なことなのかというのを本当に実感させていただきました。

また、これは、私が見たのはエディターズカットだったのですが、何か帰還バージョンというのがどこかの、ワーナーマイカルシネマズで14日から公開されているということなので、時間をつくってまた見に行きたいと思っております。ちょっと最近になく、プラネタリウムで興奮いたしました。

「アウトローたちの江戸時代」もそうですが、本当にいろいろないい企画をしていただきまして、本当にありがとうございます。

私の報告は以上でございます。

それでは、これをおもちまして平成23年第5回府中市教育委員会定例会を閉会といたします。どうもご苦労さまでございました。



午後4時14分閉会